

留学生受入可能な研究分野リスト

コース等名称	教員氏名等	受入可能人数	分野	研究・教育の領域、研究概要等	備考
グローバル・ICT・学習研究コース	釜田 聡	2名	総合学習 国際理解教育 カリキュラム・教材開発	学校教育におけるカリキュラム・教材開発について、国際理解教育やSDGs(持続可能な開発目標)など現代的諸課題の視点から検討し、学校教育におけるカリキュラム・教材開発のための理論と実践、研究手法について考察します。具体的には、日本と中国、韓国の子どもの相互理解を促すための教材開発研究とグローバル時代の東アジアの学校教育をテーマにした研究に取り組んでいます。 最近の留学生の主な研究テーマは、次のとおりです。 ・ことばに着目した国際理解教育の単元開発に関する研究—日本の中学生の中国理解のために— ・蘭州に着目した中国理解のための素材研究—「蘭州拉麺」を中心に— ・日中の中学校歴史教科書記述に関する研究—1890年代から1940年代までの日中関係史を中心に ・日本とハルビンの現在と過去をつなぐ教材開発に関する基礎的研究	
道徳・生徒指導コース	山田 智之	1名	キャリア教育 職業指導 キャリアデザイン	キャリア発達を促進するキャリア教育の効果について心理・統計的な視点から実践的・実証的研究を行い、キャリア教育を科学します。グループダイナミクス研究の創始者であるKurt Lewinの『理論なき実践は盲目であり、実践なき理論は空虚である』ということばを座右の銘として、キャリア教育、職業指導、キャリア発達、キャリア・デザイン等、あらゆる視点からキャリアを考えていきます。	
教育連携コース	奥村 太一	1名	心理統計学	心理学研究の方法論、特にデータ収集と統計分析法の開発と評価	
特別支援教育コース	池田 吉史	1名	特別支援教育	主に、知的障害や発達障害の子どもを対象として、知的機能や実行機能(executive function)などの知能の理論に基づいた実態把握と支援に関する研究及び教育を行う。修士論文では、実践指導による介入研究、質問紙による調査研究、実験心理学的手法に基づいた実験研究などの手法を用いて研究指導している。	
特別支援教育コース	坂口 嘉菜	1名	特別支援教育 聴覚障害児教育(聾教育)	研究・教育の領域は特別支援教育であり、特に聴覚障害児教育を専門としている。聴覚障害教育課程・指導法の他、聴覚障害心理・指導法特論、障害者心理検査法、特別支援教育研究法、特別支援教育研究法演習、特別支援教育観察・参加等を担当している。聴覚障害児を対象とした臨床活動を行い(聴覚障害教育臨床実習、聴覚障害応用教育臨床実習)、実践的指導も行う。WISCやDN-CASなどの認知発達アセスメントを活かした授業についても実践場面を通して指導する。研究面では、聴覚障害児の言語獲得・読みの力をテーマとしている。最近では、聴覚障害児の格助詞誤用のプロセスに関する研究を行い、聴覚活用と格助詞の獲得の関連性について研究を行っている。その他、聴覚障害児の読解における困難について、推論の力に着目した授業分析を行い、広く発表している。聴覚障害児を対象とした、ことばの表現・文法指導・読解指導に関する教材を開発し、随時公表している。	
言語系教育実践コース(国語)	押木 秀樹	1名	書写書道(漢字を含む)	字形や筆記具の持ち方・筆順・点画・書字動作等の書写指導に関する研究および書道・漢字についての基礎的な学習	

コース等名称	教員氏名等	受入可能人数	分野	研究・教育の領域、研究概要等	備考
言語系教育実践コース(英語)	大場 浩正	2名	英語教育	英語教育に関するすべての分野。特に、協同学習およびインプット、アウトプット、インタラクション、気づき、フィードバック等の英語学習への効果についての研究。	
	ブラウン アイヴァン バーナード	1名	異文化コミュニケーション	異文化コミュニケーション能力の内容について勉強し、その能力の育成を取り入れた英語教育について研究を行う。	
社会系教育実践コース	小島伸之	1名	法律学(憲法、近代法史) 社会学(宗教・サブカルチャー)	担当教員は、憲法／近代日本法史／宗教社会学を専攻し、特に人権論・日本憲法史・国家と宗教に関する諸問題を、歴史的比較の実証研究の観点から研究しています。 最近では、アニメ・特撮作品における戦争観などの社会意識の分析も手掛けております。 具体的には、人権論(精神障害者・少年の人権制限と保障、思想・信教の自由の限界)、日本憲法史、宗教社会学(宗教制度と宗教運動、宗教とナショナリズム)、機動戦士ガンダムシリーズにおける戦争観、アニメソング歌詞の変遷等の事例を主として扱っています。	
	下里俊行	1名	歴史学 哲学	歴史学、哲学史を中心に世界のあらゆる事象をよりよい社会形成のための主体形成の視点から研究している。	
芸術教育実践コース(美術)		5名	絵画 彫刻 デザイン 美術教育	絵画・彫刻・デザインにかかる実技全般 材料・技法・制作等の制作理論及び歴史 小・中・高校における美術教育	
生活・健康系教育実践コース	黎 子椰	1名	技術教育 機械工学(メカトロニクス)	(1)機械・エネルギー変換技術に関する教材・教具の開発と授業実践 (2)技術科教員養成におけるデジタルものづくり教育に関する研究 (3)日本と中国の技術教育の比較研究	
生活・健康系教育実践コース(保健体育)	周東 和好	2名	体育科教育学	体育科授業に関する実践的研究、特に、体育科の中核的内容である「動きの学習と指導」に関する研究を行う。また、教員養成および教師教育に関する研究を行う。	
			スポーツ運動学	スポーツの動きの習得方法及び指導方法について、発生運動学の観点からの研究を行う。	
			幼児体育学	幼児の動きの発生や指導方法の研究、運動カリキュラムの開発研究を行う。	
教育臨床コース・教育経営コース	堀 健志	1名	教育社会学	現代社会の構造的変化を実証的に捉えることが主要な研究関心であり、とりわけ学校・家族・労働市場・地域社会の相互連関の変容、およびジェンダーや社会階層の再生産メカニズムの変容に注目している。研究手法は主題に応じて柔軟に採用しており、質問紙調査を用いた量的方法や、インタビューや参与観察によって得られたデータを用いたエスノグラフィ、ドキュメント資料を用いた言説分析など多岐にわたる。国際比較の対象はシンガポールおよびイギリスである。	

コース等名称	教員氏名等	受入可能人数	分野	研究・教育の領域、研究概要等	備考
国際交流推進センター	藤谷 元子	1名	国際教育(国際協力、国際理解教育、異文化理解教育等)研修のデザインと評価	中東の開発途上国において、中等教育の理科教員研修のデザイン・実施・評価に関する研究を行ってきました。また、学力を決定する要因の国際比較や、教員養成機関での国際理解・異文化理解教育に関する研修のデザイン・実施・評価も手掛けております。研究手法は、量的方法を主とします。現在、研究対象国・地域は、開発途上国に限定していません。	特別聴講学生のみ